

「成果発表・講評会」



開始前。



最終日が始まりました。



いえしまでの思い出をふりかえります。



思い出がよみがえります。



高い身体能力と頭脳が求められます。



この紙は??

最終日を迎えて

9月3日から始まつた『探られる島プロジェクト2007』。いよいよ最終日を迎えました。

前回のプログラム終了後、メーリングリストやスタジオの事務所などで、時間の都合のついた参加者も参加して「プロジェクトブック」とりまとめ作業を行いました。そしてプロジェクトブックを完成させ披露するに至りました。最後の日の今回は、山崎亮講師、山崎義人講師、に加え、特別ゲストとして、LIVING DESIGN編集長の岡崎氏を迎えました。(1)(2)

いえしまの思い出+アイスブレイク

西上さんによる今回の『探られる島プロジェクト2007』の振り返りが始まりました。参加者の初対面から旅のハプニングまで、プロジェクトの隅々までスライドと共に振り返られました。ほとんどの参加者が得た初めてづくしの思い出とスライドとを重ね合わせると6日間の出来事が鮮明に浮かび上がります。(3)(4)

いよいよ完成したプロジェクトブックのお披露目ですが、その前に最後となるアイスブレイクが行われました。最後のアイスブレイクは「みんなオニ」と「スノーフレーク」。このプロジェクトでは数々のアイスブレイクが登場し、アイスブレイクを行う度に参加者の結束が深まり、スムーズな討議ができました。アイスブレイクはプロジェクト参加者と講師の方と一緒にアイスブレイクを行いました。(5)(6)

プロジェクトブックの発表

プロジェクト参加者に完成したプロジェクトブックが配られます。今回のプロジェクトテーマは「人」。島独自の歓迎を受け、島独自の料理を食べ、島独自のもてなしを受けるという、その内容はまさに「衝撃」。プロジェクトブックはその「衝撃」をそのまま活かした編集内容となりました。これまで制作された2005、2006のプロジェクトブックと違い、2007のプロジェクトブックはアナログ感に満たされたデザインとなりました。家島で見た、受けた全ての出来事がプロジェクトブックの表紙クラス。それは、島の生活スタイルから生まれる島独自の文化に優劣がない事が顕著に表されています。参加者の感想として「表紙の激しさがおもしろい。初めて見ても中身が気になる。」「旅が鮮明に思い出されるし、初めて見た人も家島の雰囲気がわかりやすい。」と高評価でした。(7)(8)

プロジェクトブックの講評

プロジェクトブックを読んでもらい、講師、家島の方に講評をしていただきました。(9)(10)(11)

【講師山崎亮氏】

たのしい冊子ができた。家島の魅力をトータルでしっかり伝えられている。今年で3年目のプロジェクトだが、確実にこのプロジェクトは成長している。

【講師山崎義人氏】

最初は参加者が主体、家島住民が客体だったが、参加者が生活に入り込む事で、参加者、家島住民が共に主体となる事が写真を見るとよくわかる。ホームステイのしかけづくりが成功の鍵になったのでは

【LIVING DESIGN編集長岡崎氏】

思いがよくまとめられている。地方紹介をテーマにすると我々はノスタルジックな編集にしがち。新しい表現方法を見た。

【家島在住中村氏】

とても衝撃的なプロジェクトブックができた。当時の雰囲気がよく伝わる。

【家島在住山下氏】

参加者と島を回る事ができてとても楽しかった。

「探られる島」プロジェクト2007修了式

いよいよこのプロジェクトの修了式を迎えました。アイスブレイクで作られたスノーフレークはなんと最後の紙吹雪のため。最後は笑顔で記念撮影を行いました(12)



プロジェクトブックお披露目です。



まさに衝撃！



講評していただきました。



講評していただきました。



講評していただきました。



紙吹雪はちゃんと掃除です。